

「広島神楽」定期公演へようこそ！

公演日 12月10日

出演団体のご紹介

上中調子神楽団 ～かみなかちょうしかぐらだん～（広島市安佐南区）

上中調子神楽団はおよそ70年前、上中調子地区で活動を行っていましたが、時代が昭和に入り、戦中・戦後の混乱に昭和18年の大水害や20年代の太田川改修工事による高瀬の浜・土手筋地区の全面立ち退きや恵比寿神社の立ち退き移転・神楽衣装の老朽や廃棄などが加わり、休止の状態が続いていました。

平成19年から22年に地域の皆さんと話し合いを続け、「上中調子神楽団を皆で復活する事、そして、子どもたちにマナー、礼儀などを指導していこう」と、平成22年2月から少人数で毎週水曜日、土曜日の19時半から21時まで練習をしています。

これからも精進して参りますので、応援の程、よろしく願いいたします。

19:00～ 演目①

悪狐伝 ～あっこでん～

平安時代の中頃、美しき女人・玉藻前(たまものまえ)が鳥羽天皇に仕え、寵愛(ちょうあい)を受けはじめると、天皇の深いが重なり始めます。不信を感じた陰陽師・安部泰親が占うと、玉藻前は姪酒によって王を誘惑し、悪の限りを尽くして中国から飛来した金毛九尾の狐の化身であることが判ります。正体を見破られた妖狐は、下野(しもつけ)の国・那須乃ヶ原(なすのがはら)に逃れます。そこで狐は様々な姿に身を変え、悪行を重ね里人を苦しめました。

再び美しき女人を装うと、狐は迷い人となって女人禁制の十念寺に現れ、和尚・珍斎(ちんさい)をとり喰らいます。その後、悪狐退治の勅命を受けた弓の名人・三浦介(みうらのすけ)と上総介(かずさのすけ)によって退治されるという物語です。

演目が変更になりました。あらかじめご了承ください。

20:00～ 演目②

土蜘蛛 ～つちぐも～

大和の国を一望する葛城山に棲み付き、天下を攪乱(かくらん)しようとする土蜘蛛の精魂が、都の守・源頼光(みなもとのらいこう)へ忍び寄ります。時に頼光は病に伏し、頼光の美しい侍女・胡蝶(こちょう)が典薬(てんやく)の守から薬を持ち帰るところを、土蜘蛛の精魂は襲います。そして、胡蝶になりすますと、頼光に毒薬を薬と偽って飲ませます。しかし、頼光に正体を見破られ、伝家の宝刀「膝丸(ひざまる)」で一太刀浴びた土蜘蛛の精魂は葛城山へと逃げ帰ります。

頼光は、我が身を救った宝刀「膝丸」を「蜘蛛切丸(くもきりまる)」と改め、四天王にこの刀を授け土蜘蛛退治を命じます。四天王は、葛城山へ向かい精魂の妖術に立ち向かい、壮絶な戦いの果てに成敗するという物語です。

【出演】

| | | |
|------|---|-------|
| 玉藻前 | — | 湧山 柊 |
| 珍斎 | — | 野崎 崇 |
| 三浦ノ介 | — | 小笠原 翔 |
| 上総ノ介 | — | 中野 遥希 |
| 狐 | — | 有森 翔記 |

| | | |
|-----|---|-------|
| 大太鼓 | — | 手嶋 竜馬 |
| 小太鼓 | — | 松島 大志 |
| 手打鉦 | — | 小坂 正純 |
| 笛 | — | 山下 美貴 |

※出演者は予告無く変更になる場合がございます。

【出演】

| | | |
|------|---|-------|
| 胡蝶 | — | 湧山 柊 |
| 卜部季武 | — | 松島 大志 |
| 坂田金時 | — | 中野 遥希 |
| 源頼光 | — | 手嶋 竜馬 |
| 土蜘蛛 | — | 野崎 崇 |

| | | |
|-----|---|-------|
| 大太鼓 | — | 有森 翔記 |
| 小太鼓 | — | 小坂 正純 |
| 手打鉦 | — | 山本 美幸 |
| 笛 | — | 山下 美貴 |

※出演者は予告無く変更になる場合がございます。

終演後(20:45頃～)記念撮影会を実施します。どうぞ最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

※記載の時間は目安です。多少前後する場合がございますので、あらかじめご了承ください。